

令和7年度 第2回豊川市緑の基本計画中間見直し策定委員会

議 事 録

■ 日 時 : 令和7年10月31日(金) 15時30分～16時40分

■ 場 所 : 議会協議会室

■ 次 第

1. 議題

(1) 豊川市緑の基本計画中間見直し(案)(資料1)

2. その他

見直しスケジュール(資料2)

■ 出席者及び欠席者の氏名

1. 委員

氏 名	所 属	役 職	備 考
岡本 肇	中部大学工学部都市建設工学科	准教授	学識
臼井 直之	岐阜市立女子短期大学デザイン環境学科	准教授	学識
落合 利夫	豊川商工会議所 建設関連部会	部会長	商工業
山口 伯男	豊川市農業委員会		農業
門林 直人	東三河流域森林・林業活性化センター事務局	事務局長	森林
市川 勝久	豊川造園建設協同組合	理事	造園
笠松 由美	とよかわ里山の会	監事	環境
猿渡 裕子	特定非営利活動法人 とよかわ子育てネット	理事	児童福祉
鈴木 昌浩	豊川市連区長会		町内会
小野田 薫	市民		公募

2. オブザーバー

氏名	所属	役職	備考
森井 康弘	愛知県都市・交通局都市基盤部公園緑地課	主査	オブザーバー
佐々 渉	愛知県東三河建設事務所都市施設整備課	主任	オブザーバー

3. 事務局

氏 名	所 属	役職	備考
山本 英樹	都市整備部	部長	豊川市
田中 良生	都市整備部	次長	豊川市
松原 太郎	都市整備部 公園緑地課	課長	豊川市
宇都野 友一	都市整備部 公園緑地課	課長補佐	豊川市
亀井 真人	都市整備部 公園緑地課 公園管理係	係長	豊川市
丸山 紘典	都市整備部 公園緑地課 公園管理係	係員	豊川市
鈴木 孝広	中央コンサルタンツ株式会社	技術監理部長	
平沼 克	中央コンサルタンツ株式会社	主任	

■ 議題

(1) 豊川市緑の基本計画中間見直し(案)

【資料説明】 資料 1

【質疑応答】

委員長	特別緑地保全地区や保全配慮地区は、現状指定されている箇所はありますか。
事務局	指定はありません
委員長	社寺等に、今後指定をかけていこうという考え方ですか。
事務局	具体的な指定箇所については未定ですが、緑の基本計画にある宮路山や本宮山等を検討しています。
委員長	農業基盤整備について、具体的にはどのような内容を考えていますか。
事務局	土地改良を推進しており、今後も面的な整備を図っていくことを想定しています。
委員長	前回の委員会で緑の「質」に関する議論がありました。そのひとつの答えが「森林蓄積量」を指標に追加するということでしたが、「質」の要素は、景観など様々な要素が考えられます。森林蓄積量以外の視点から「質」に関して考慮していることはありますか。
事務局	前回の委員会意見を踏まえ、緑の「量」を補完する指標として森林蓄積量を新たに追加しました。「質」に対する考え方が様々ある中、今回の中間改訂では、まずは蓄積量を把握し、後期の 5 年間で評価していく方針としています。
委員長	森林蓄積量の出典は愛知県とのことでしたが、これは愛知県が発行しているデータのうち豊川市内のデータを使用しているという理解でよいですか。
事務局	その通りです。
委員長	前回の委員会で、施策の取捨選択をした方がよいという意見がありましたが、その点に対してはどのように考えていますか。
副委員長	人口減少局面の中、同時に緑の量も減っている現状があるというのが前提としてあります。その状況下で緑の基本計画をどのように考えていくかは避けて通れない問題だと思います。おそらく緑の「質」の向上というのが答えかと思いますが、緑の「質」を測る尺度が様々ある中で、どのような「質」を向上させようとしているかの考え方を教えていただきたいです。これが 1 点目で、2 点目は委員長の話に直結する話ですが、市の施策としてどのような事業を推進していくのか、どのような行政側の動きを経てこの計画がとりまとまったかを教えてください。
事務局	緑の「質」については、市民協働を促進することやグリーンインフラの展開も「質」の向上につながると考えています。一方で、中間改訂の時点ではそれらの要素も含めて「質」を評価するのは難しいと考えています。そこで、まずは緑を保全する観点から、市民協働を図って緑を守っていくという内容にしています。 今後どのような事業を進めていくかですが、新たに樹木の長寿命化計画を策定する予定です。これにより、間伐や捕植等を通して健全な樹木の生育を図っていきたいと考えています。
委員長	緑の基本計画は守備範囲が広いので、難しい問題だと思います。ひとつに答

えを絞りきれないのもやむを得ないと考えます。ただ、計画を策定する以上、この計画が、各課が実施する次の施策に結びつくようなものにするのが大前提であるので、各課が目的意識を持ちやすいような内容にするのもよいと思います。いずれにしても、緑の基本計画が幅広い内容を含むという共通認識は持つておく必要があると思います。

緑の「質」については、次回改訂時により詳細に整理しておく必要があると思いました。

耕作放棄地の解消に関して、「解消に向けた意識啓発や情報発信を行うとともに、地域計画に基づく取り組みを推進し、営農意欲の高い新たな担い手確保を図ります」と記載されています。趣旨はよく理解できますが、どのような手段で取り組みを進めていくのか関心を持ちました。

委員

農業委員会では、地域計画図と目標地図を作成するとともに、意向調査を行い、農業を守る対策を取ろうとしているところです。また、耕作放棄地については、9 月末までに農地パトロールを完了し、解消に向けた活動を進めていこうという話し合いをしているところです。

委員長

活動の実効性についてはいかがですか。

委員

実際はあまり進んでいません。農業委員会でも話題になっているものの、具体的な行動には至っていないのが現状です。今後 5 年、10 年の農業のあり方を検討しながら、農地利用最適化推進委員を含めて取り組みを進めていこうという話をしています。

委員長

ここでいう「地域計画」とは具体的にはどのような計画ですか。

委員

5 年、10 年後の農地の姿を見据えた整理をしています。例えば、担い手の高齢化を踏まえて農地を集約するなどの方針を目標地図に落とし込んでいます。

委員長

一般市民にはわかりづらく、現状は説明不足の印象です。注釈が必要だと思います。

委員

豊川市では、実際に間伐事業の実績はありますか。また、今後も引き続き実施する予定ですか。

委員

農務課で間伐の計画を立て、森林環境譲与税を活用して今後も間伐を進めていく流れにはなっています。

事務局

農務課を窓口として、間伐に対する支援を行っています。市内 2 地区において、県事業による間伐を毎年実施しています。

委員

林業としての緑の捉え方と、環境を含めた緑の考え方と2通りあると考えています。例えば森林蓄積量の増加に対して、林業の立場ではマイナスのイメージを持っています。木の体積が増加しているから、木材をより活用していこうという考え方であり、古い木は伐採して新たな木を植えていく考え方を示すときに森林蓄積量が使われます。一方、緑の保全として森林蓄積量を維持するために取り組みを進めるという考え方も重要であることから、森林陸続量に対する考え方を明確にしておく必要があります。県の「あいち森と緑づくり事業」や国の森林環境譲与税の使い道について、より踏み込んだ内容を計画に盛り込めると市のとしての方向性が明確になると思いますが、その点についてどのように考えていますか。

事務局	<p>緑を「守る」施策の中に、森林環境譲与税の活用に関する内容を位置づけています。森林蓄積量については、中間評価で面的な緑の量が減少していることが判明したことを踏まえ、それを補完する指標として、今後 5 年間の推移を評価することを考えています。5 年後の見直しのタイミングで、環境と林業の 2 つの視点を考慮した新たな指標を検討していきたいと考えています。</p>
委員	<p>森林整備イコール間伐という考え方そのものも時代遅れになりつつあります。戦後植林された樹木は、多くが伐採期を超過しているというような環境にあることから、今後の森林整備は間伐よりも皆伐によって森林を再生していこうという考え方が主流になっています。国や県の補助金も間伐より皆伐の方が多くなっている状況も念頭に、より先進的な考え方をしたほうがよいと思います。</p>
副委員長	<p>非常に重要なことだと思います。先延ばしにしてよいのか、一度精査した方がよいと考えます。テクニカルな問題ですぐに動き出せないのはやむを得ないとは思いますが、先送りにするのかしらないのかの話だけでもしておくべきではないでしょうか。</p>
事務局	<p>担当課の農務課にヒアリングした結果としては、国や県の補助を活用して間伐の支援を増やしていきたいとのことでした。方向性としては間伐を進める意向であり、皆伐に関する言及はありませんでした。</p>
副委員長	<p>皆伐に関する意見が出ていることを踏まえ、農務課に対して再度ヒアリングを行うべきではないでしょうか。また、愛知県としては間伐か皆伐かの考え方をどのように整理されていますか。</p>
オブザーバー	<p>農林水産部局の管轄(森林保全課)であり、県の方向性に関する回答は、この場では難しいです。</p>
委員	<p>やはりこれは非常に難しい問題だと思います。森林の大半は民有林であり、民有林単位で補助金の交付を受けて、どのように間伐を進めるかを考えようとする、森林経営計画を立てるなど、面積規模を拡げて事業を進めていく必要が出てきます。森林保全を行う方向性に基づく事業として、そこまで規模のものを実施していくよりは、見える範囲の緑に対して、樹木が育ちやすくなる環境を目指すことを第一の目的とする考え方が個人的にはよいと思います。</p>
委員	<p>かつては森林組合があり、山から材木を切り出して製材加工して活用するという流れができていたように、市産の木材を市の関係部署が積極的に活用していないと、民間事業者の需要だけでは林業のサイクルが成り立たないのではないのでしょうか。伐採の担い手が減少しつつある中で、計画の中で林業のサイクルを回すことを明記しなければ、サイクルが回らなくなるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>森林環境譲与税については、市内の公園、具体的には赤塚山公園の整備に活用しています。また、毎年学校の下駄箱で木材の利用を行っています。一方で、屋外の公共施設では木材の利用が少なくなりつつあります。今後、可能な限り庁内で連携し、木材の利用を図っていきたいと考えています。</p>
副委員長	<p>緑の基本計画を取りまとめるときに、緑を捉える視点としては人間側の緑、人間が直接的な使う側の視点に立って整理していくものかをお聞きしたいです。一方、別の視点では、自然側から緑を捉える考え方があります。人間側の視点で</p>

	<p>整理するのであれば、森林蓄積量はその視点とは別の話というのも理解できます。それとも、人里離れた山の中の緑まで計画の対象とするのか、考え方を教えていただきたいです。</p>
委員長	<p>これは非常に難しい問題です。ネイチャーポジティブも計画に取り入れる必要があり、一方で、グリーンインフラの展開も必要であり、人間側と自然側両方の視点から緑を捉えるという認識です。近年、生態系の内容も含めた様々な内容を取り入れることを求められている中、もともとは人間側の視点から整理された計画であることを踏まえると、現在は人間側から自然側へ徐々にシフトチェンジしていく過渡期にあるのではないかと考えていますが、事務局の見解はいかがですか。</p>
事務局	<p>今回の見直しで新たにウェルビーイングに関する記載を追加していますが、人工的に創る緑だけでなく、緑そのものの価値に着目することを求める国の方針があることも踏まえ、人間側と自然側全体の緑を捉えた計画としたいと考えています。</p>
委員	<p>現行計画の基本理念のとおり「うるおい」と「にぎわい」にあふれる緑があるとよいと思っています。一方で、県道にある低木の街路樹は、安全上の観点から撤去している現状があります。また、佐奈川の桜はテレビで放映されるほどの美しさがありながら、桜の木の植え替えは不可能と言われています。基本理念の内容も踏まえて、川の緑の保全として桜の植え替えを県に働きかけることはできないでしょうか。</p>
委員長	<p>佐奈川に関する施策はありますか。</p>
事務局	<p>保全を図るような内容を盛り込んでいます。一方で、佐奈川の桜は河川区域に含まれているため、桜の植え替えは現実的に困難な状況です。所管する道路河川管理課にて代替案を検討しているところです。</p>
委員	<p>菜の花も含めて佐奈川の桜の美しさは魅力的なので、可能であればせめて現状維持でも取り組みを進めていただけるとよいと思います。</p>
委員	<p>桜が咲く春以外の季節でも、花が咲き、人々が集まり、四季を感じられるような場があれば、「うるおい」と「にぎわい」にあふれる緑のまちに近づくのではないかとと思います。</p>
事務局	<p>桜の観光名所は引き続き保全を図っていきたいと考えています。樹木の観点では、検討を深めて地域に合った樹種を植えていきたいと考えています。</p>
委員	<p>市の花はサツキですが、管理が難しいという課題があります。管理しなくとも咲いていく花を植えるのもよいと思います。</p>
委員長	<p>今回の計画でも触れられてはいますが、今後、生態系保全の重要性はさらに高まると考えています。特に、絶滅危惧種の生息地の緑を守っていくことを求められると同時に、そこをどれだけ守れたかを評価する指標を作る必要が出てきます。しかし、その把握や継続的な観測をどのように行うかは非常に難しいと思います。この点について、県ではどのように考えていますか。</p>
オブザーバー	<p>生態系保全に関する世の中の流れがある中で、緑の基本計画に生態系の内容をどこまで具体的に書き込むかについては県としても悩ましく思っています。ひとつの大きな方向性を示しておくのもひとつである一方、ピンポイントで希少種</p>

委員長 オブザーバー 副委員長	<p>の生息地に対する取り組みの方向性を示すような方法も考えられると思います。</p> <p>県内で具体的な記載がある事例はありますか。</p> <p>県内ではまだないという認識です。</p> <p>計画の基本的な考え方は、理念があり、その下に基本方針が4つあり、そこから具体的な施策に細分される構成になっています。その具体的な施策がネイチャーポジティブか、ヒューマンポジティブのどちらを向いているのかが、施策によってさまざまであり、場合によっては施策間で矛盾することもあると考えられます。そのとき、現行計画 P.71 にある基本方針の体系図は大きな意味を持ちます。仮に矛盾が生じたときは、基本理念の方向に立ち返る、すなわち、ある具体的な施策を進めようとするときに、基本方針を実現するために実施するということを明確に示すことが重要です。具体的な施策の間で矛盾があっても、理念に対しては同じ方向を向いていることが重要、という考え方です。それぞれの施策が根本の理念に合ったものであるかを確認するのが、矛盾が生じたときの議論の進め方と考えます。話題に挙がっている森林蓄積量等の要素を指標としてどのように扱うかについても、この考え方に基づいて判断するのがよいと思います。</p>
委員長	<p>矛盾点という表現が正しいかはわかりませんが、施策を考える際に出てくるジレンマ的な要素については計画書の中で課題として明記するのもよいのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>各課がそれぞれの立場で施策を考えているから矛盾が生じるのではないのでしょうか。各課間の調整を図り、庁内横断的に計画をまとめていくような作業をしていただけるとありがたいです。</p>
事務局	<p>初めに立てた理念に立ち返り、矛盾がないかを確認しながら各課と連携を図りたいと考えています。</p>
副委員長	<p>矛盾を解消しようとしなことが重要です。各課が自らの目標に向かって施策を考えるのは当然であり、それは否定されるものではなく、むしろ共に進めなければなりません。基本方針、もしくは理念のどの階層を考慮したときにこの施策が必要かという合意形成は必要です。つまり、この施策を進めるために別の施策をやめる、という考え方は適切ではなく、むしろ将来的に不合理な結果を招きます。よって、矛盾は矛盾のまま残しつつ、各施策をどのように進めるのかを、その時の状況に応じた最善を見出すのが、計画を見直す手続きのあり方であると考えています。</p>
委員長 事務局	<p>計画の見直し内容については、一度は庁内に諮っていますよね。</p> <p>施策の実施状況等は各課から情報収集して中間評価を行っているので、一度は内容を確認している状態ではあります。</p>
委員	<p>庁内で色々な方と話をしていると、縦割り行政の印象が強く、課間の横のつながりが見えてきません。プロジェクトチームのような協議体を結成し、横のつながりを強化して進めていくべきではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>委員会の前に、庁内の関連部署を集めて作業部会を行っています。また、計画の素案が完成した後は、全庁に内容を確認いただく機会を設けています。縦割りを少しでもなくせるような取り組みを進めていきたいと考えています。</p>

委員一同

今回、保留とした議案については、委員長、副委員長への一任することによっていいでしょうか。
良いです。

■その他

【資料説明】 資料 2

以 上